

## 腸の腺窩細胞

### 腸の腺窩細胞 ちょうのせんかさいぼう

腸の絨毛（じゅうもう）の基底にあって絨毛の上皮細胞をつくる細胞。絨毛は小腸の粘膜上に密集して存在し、絨毛を通して栄養などを吸収している。絨毛の上皮細胞は腺窩（せんか、クリプト）で幹細胞から作られ、らせん状に絨毛壁に沿って上部へ移行し、2～3日後に先端で脱落して寿命を終える。腸が放射線を受けると、腺窩の幹細胞の細胞分裂が停止する。腺窩での増殖が停止しているにもかかわらず、脱落は継続して行われるので、絨毛の長さは短縮する。被ばく後2～3日で絨毛上の機能細胞が減少したとき下痢が始まる。線量が高くなると消化管中のリンパ濾胞（ろほう）が穿孔し下血がみられる。

---

<登録年月>  
2010年10月

---

---